

ドレッサージュホースに育てよう!



6月号はお休みをいただいたので、2ヵ月ぶりとなります。5月号では初めての競技出場の報告をしましたが、その後、4月末には公認競技に連れて行き、L1クラスで2日間とも61%でした。5月9日・10日の大会は回避、翌週、5月16日・17日の《あづみのドレッサージュ》はL1課目とL2課目に出場、両方とも60%を超える結果でした。

競技会を通じて、また毎日のトレーニングの中で多くの課題がありますが、今回はその一つ、《コンタクト》について考えてみたいと思います。

☞ コンタクトの安定 パート I ☞

馬場馬術だけでなく、馬術全般に渡って馬と繋がるためには安定的にコンタクトを維持する必要があります。馬と良好な関係を築くためには、決して避けて通ることはできません。それは、馬場馬術に限らず障害馬術においても同じです。

では、《コンタクト》とは何でしょう？ 私が考えるコンタクトは、騎手が馬に対して最小の扶助によって意思を伝えるために不可欠なものです。ハミを受けた体勢で得られるコンタクトは、常に騎手の拳と繋がっていて、馬がそれを快適に感じ信頼している、という関係性をもっていなければならないと思います。そのためにも、馬とのコンタクトを形成する過程では、馬に納得させてコンタクトを作っていくことが必要になります。

馬とのコンタクトを安定的に維持するには、騎手の安定した騎座と拳の使い方が重要です。オースミレブン号とのコンタクトは現時点では良好とは言えません。私と同じ悩みを抱えている人は多いのではないのでしょうか？

基本的には、ウォームアップ時に行う頭頸の伸展運動から馬とのコンタクトの関係は始まっています。この時点でハミに対して抵抗を示す場合は、先に進んだとしても良好な関係を築くことはできません。

コンタクトは、馬がハミを受け入れることによって得られるものです。決して騎手が一方的に要求して得られるものではありません。馬とのコンタクトを確立するには、馬自らの協力が不可欠です。馬の協力を得るには、馬にとって快適と思える環境を作る必要があります。馬はそこが快適だと理解すれば、自らその場所に留まろうとするものです。

では、馬をそのような気持ちにしていくためには、どのようにするべきか、具体的にオースミレブンと私が抱えている問題を例にして考えてみます。それぞれについて、私なりに問題を分析して解決法を考えました。



▲軽いコンタクトで馬の鼻面が垂直な状態を求める

・コンタクトを求めると気性面のイライラからハミを弾いたり頭を振ったりする

サラブレッドは気性の面からもコントロールが難しく、ハミ受けに関しても乗り手は十分に配慮する必要があります。馬の品種や性格にかかわらず、ハミ受けを安定させるには、ハミを受けている体勢を馬自身に維持させることが必要です。騎手が常に強いコンタクトによって体勢を強制しようとする、馬はその苦しい状態から逃げようとしてしまいます。

根本的に問題を解決しようとするならば、軽いコンタクトで馬の体勢を維持することが必要です。そのためには、馬がその体勢を受け入れ、自らが維持しようとしていなければなりません。そのような関係を馬と築くため、または頭を上げてハミに抵抗したり頭頸に丸みがない場合は以下のことを行います。

◆ 輪線運動での運動

- ① まずはコンタクトを築くために、脚扶助により旺盛な前進氣勢を生み出します。この時、スピードを速めるだけにならないように、アクティブに動くことを促します。
- ② 内方脚から推進力が外方へ向かっていくようになります。そうすると、内方手綱を内側へ開くことができ、馬の頭頸も内方に向けることができます。同時に外側へ出て行こうとする推進力を外方手綱で受けるようになります。
- ③ その状態をつくった上でハミに直接プレッシャーを与えます。馬の頭頸をサイドへ屈曲させながらプレッシャーに強弱をつけながら馬の反応を確かめます。

- ④ 馬が騎手の求めた屈曲や姿勢に少しでも反応するのであれば、報酬として求めるために使っていたハミへのプレッシャーを緩めます。
- ⑤ ハミへのプレッシャーを緩められた馬は、緊張していた頸の筋肉を一時的に緩めてくることがあります。その馬の反応を尊重するように愛撫をして褒めます。
- ⑥ ハミへのプレッシャーを緩めても、逆に頭頸を上げて抵抗を続ける場合は、再度ハミにプレッシャーを掛け直します。この一連のプレッシャーオン・プレッシャーオフを、騎手が求めるハミの作用に馬が反応するまで繰り返します。プレッシャーオン時に同時に屈曲を求めることで、より大きな効果が期待できます。

ハミを左右に小刻みに抜き差しするように拳を使うと、一時的にハミ受けをしているような体勢になることがあります。俗に言う《空っハミ》の状態です。しかし、それはコンタクトの本質とは程遠いものです。なぜなら馬が納得せずに無理やりハミ受けのような体勢を形作られているため、またその体勢から逃れようとしてきます。そして騎手はまた拳を小刻みに動かして形作ろうとします。この悪循環は永遠に繰り返されます。騎手は常に拳を抜き差ししながら運動しなければならなくなります。だからと言って騎手の拳は常に固定しておくという意味ではありません。それは、上記①～⑥に示した感覚でおわかりいただけると思います。

騎手がしなければならないのは、馬自身にバランスと体勢を納得させてそれを維持させることなのです。そのきっかけを騎手がうまく作ってやれば、馬は自ら仕事をしようとしてきます。馬が自分で選択して行えば、その体勢は馬自身が維持するのです。

また、コンタクトは拳だけで得られるものでもないと思います。しかしながら、コンタクトが安定しない原因の一つとして、騎手の拳の不安定さも挙げられます。それについては、来月号で詳しく考えていきたいと思います。



▲頭頸を内方に向けて反応を確かめる

《 掲 示 板 》

《有限会社グランド牧場》 牧場スタッフ・事務員正社員募集！

業務内容：競走馬の生産、育成、調教に関わる業務全般、
場内整備等

事務員も募集中

雇用形態：正社員／契約社員

給与・待遇：委細面談

勤務地：北海道日高郡新ひだか町又は岩手県遠野市

応募方法：まずは電話又はメールでお問い合わせ下さい。

担当者からご連絡致します。

競走馬の生産、育成、調教、コンサイナーを行なう総合牧場です。

当場は、繁殖場3ヶ所、コンサイナー場1ヶ所、育成場2ヶ所の施設を所有しています。馬の管理では、米国よりドクター

を招聘してのチェックを行なうなど、社長をはじめ獣医師、装蹄師、飼料等の各専門家とスタッフが集合して意見を交え、チームワークで馬を育てていきます。様々な経験を積み努力し続けることがプロのホースマンであり、強い馬づくりへとつながると信じ、皆で挑戦し続けています。

所在地：〒056-0011

北海道日高郡新ひだか町静内真歌45番5号

有限会社グランド牧場

TEL：0146-45-0189／FAX：0146-45-0038

E-mail：grandstud@wing.ocn.ne.jp

URL：http://www.grandstud.jp

《揭示板》に掲載している内容については、当連盟では責任を負いかねます。

《揭示板》利用のご案内

《揭示板》のページでは皆様からの情報を有料（5,000円）で掲載いたします。スタッフ募集などの情報を掲載ご希望の場合には、是非ご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは

TEL：03-3297-5611 E-mail：kouhou@equitation-japan.com まで